

高校生が思いつく疑問を町長に質問
ふるさと高校生議会議行われる



11月15日、ふるさと高校生議会議を役場議場で行い、上ノ国高校2年生6名が町政について質問に立ちました。

この取り組みは、まちの将来を担う高校生が町政への提案を通じて、郷土に関心や愛着を持ち、まちづくりに参加してもらおうと行っているもので、生徒は町長などに対して「町内人口の激減」や「学習環境の整備」など6項目を質問。この内容は町の現状を学び、疑問や日頃感じていることを踏まえ2年生全員で考えたそうです。

今回、議長を務めた斉藤悠雅さんは、「とても緊張しましたが、スムーズに進行できるように務めました。高校生議員がきちんとした態度で質問していたので感心しました。」と仲間をたたえていました。

昔の街並みに思いを馳せ

11月10日、上ノ国町内会のふれあいサロン事業の一環で『昔の街並みを語り合う集い』が、勝山交流館で開かれ、約40人が参加しました。

はじめに、大留在住の久末千里さんが屋号の意味について解説し、その後、昭和40年代を中心とした街並みの様子がスライドに映し出されると、参加者は口々に懐かしいと話し、中には映し出された場所や人について紹介する人もおり、予定した時間を大幅に上回りました。

また、松浦武四郎などの文獻に基づいた江戸時代末期の上ノ国の様子が語られたほか、明治20年頃の地図や古民具なども展示され、参加者は昔の街並みに思いを馳せていました。



農業者、農地での暗き排水を学ぶ



10月30日、檜山振興局農村振興課主催によるほ場づくりの基本となる暗き排水を学ぶ講習会が役場庁舎などで行われ、農業者や関係機関など約30人が参加しました。

この講習会は、ほ場整備に重要な暗き排水の整備を農業者自らが行うことが多いことから、最新の技術などを学んでもらおうと実施されたもので、設計の基本や施工方法、管理方法が説明されたほか、実際の施工現場を見学しました。

参加者は、「水田、転作田、畑の施工方法を知ることができてよかった。」「暗きよが効かなくなってきたほ場があるので、今回聞いた方法を試してみたい。」などと話しており、この整備が行われることで作業効率の向上と収量の増加が期待されます。

東京のイベントで「ひやま」を売り込む

11月3日、4日の2日間、東京都大田区で開催された「OTAふれあいフェスタ」に檜山管内7町連携事業の一環で参加しました。

この取り組みは、「北海道のひやま」のPRを目的に平成28年から参加しているもので、今回も、ホタテ焼きやいももちなどひやまの味覚を販売し好評を得ていたほか、地域を代表する郷土芸能の江差追分を披露し「ひやま」をアピールしました。

訪れた人からは「昨年も購入して美味しかった」「2月の蒲田でも販売しているよね」など多くのリピーターも見られ、少しずつではありますが「北海道のひやま」の名前が浸透してきている様子でした。

